

平成 23 年 3 月 7 日

<佐々木 朗>

『小学校外国語活動』必修化直前研修会に参加して

1. 日時 平成 23 年 2 月 27 日 13:00～15:00

2. 会場 函館市地域交流まちづくりセンター（旧丸井デパート）

3. 主催 函館児童英語研究会

4. 内容

① J-SHINE 小学校英語活動シンポジウムの報告

② すぐに使えるゲームなど

5. 内容の概略

① J-SHINE 小学校英語活動シンポジウムの報告など

○小学校外国語活動に関する教育委員会へのアンケートでは、①指導目標と指導方法、②指導者、③評価、④中学校との連携などが課題となっている。課題がないと答えたのは 2 割程度だった。

○英語ノートは、平成 24 年度から一部改訂になりそうである。チャンツなど一方的な者が多い。不自然な会話などが一部入っている。

○英語が好きな人が英語を教えるのが一番である。

○先生方同士で、指導方法を共有していくことが大切である。

○英語ノートとは、①学習指導要領に掲げられている活動内容を具体化させたもの。

②全国の小学校が胸中の方向性をもって活動を展開してくための参考書。③教科書ではない。

○英語ノートをしようして授業をするときに考えること

①教科書ではなく参考資料としてチェックしてみる。

②英語活動の一つのモデルとして使ってみる。

③学校目標、行事などに沿って内容を選択してみる。

④内容、順番などに縛られない。

⑤指導者、児童、時間数、人数、レベル、環境要因にあわせる。

⑥「英語ノート」と「積極的コミュニケーションを図ろうとする態度の育成」をどのように連動させるか考える。

⑦英語活動の中での日本語と英語の効果的な使い分けを考える。

⑧得指導する内容と指導過程（手順）について検討する。

⑨「英語ノート」で用いている会話表現を実生活の中で使用可能な自然な会話にかえてみる。



(2) ワークショップ

①誕生日あてゲーム

一切言葉を使わずに、15名ほどでグループになった参加者が、誕生日順に並ぶ。指で伝えることになった。できたら、前から誕生日を言って確かめた。コミュニケーションとな何かということ学ぶ。言葉でなくても意思疎通はできること。積極的に人とかかわらなければ並ぶことができないこと。



②ロンドン橋落ちた

最初、拍手でリズムを取り、何の曲か連奏する。「ロンドン橋落ちた」を英語で歌う。それに、メリーさんの羊を重ねてうたう。メロディーがピッタリと合う。みんなで楽しく歌うこと。英語の歌に慣れ親しむこと。

③歌に合わせて、自分の誕生日のところだけ立つ。少なくとも自分の誕生月を英語でなんというかがわかる。

④12人のグループを作り、トランプの1から12をもらう。もらった人は数を見ないで、おでこに当てる（周りの人からは見える）。周りの人のカードをぐるっと見て、近くの人に、「October?」と自分の月を確認する。相手は「That's OK./No, try again」と告げる。1月～12月の順に並ぶ。これもコミュニケーションである。

⑤数人のグループになる。丸くなって風船

でトスをする。When is your birthday?(全員)、My birthday is December. (トスした人)と交互に言う。ちょっと難しかった。

⑥聞き取り、英語で自己紹介をしている子どものCDを聞く。グループで話し合い、どんな話をしているかを話し合う。情報をシェアする。

⑦この他に「クラスの友達の誕生日を調べよう」(TVスター、スポーツ選手などの誕生日クイズ)、「誕生日から発展して暦、学校行事などについてのやりとり」、「クラスカレンダーの作成」などが紹介された。

6. 感想

やってみなければわからない。実践してみても、だんだんと自分のものになっていく。自分の引き出しの数が増えてくるということを確認した。

J-SHINEの資格は、日本人で、小学校英語を専門的に学習した人に与えられる。函館市内の学校でもいくつかの学校で導入されている。有料である。



今全国的にも、ALTの活用は、それまで中学校オンリーで小学校での指導は付帯業務的であったが、本格的にローテーションを組んで、配置されている。しかしながら、ALTが来れば、外国語活動が盛んに

なるかと言えば、全くそんなことはない。全くといったら語弊があるかもしれないが、多くのALTは、小学校での外国語活動について、詳細に研修を積み重ねているわけではないからである。したがって、「ALTにお任せ」という指導者の考え方は間違っていると私は思う。

私は、元中学校の英語教員をやっていたこともあり、小学校英語には従前から興味があり、研修を重ねてきた。思うことはたくさんあるだが、一つは「活動」であるということ。だまって45分間椅子に座って、黒板に向かうような授業ではないということ。そして、もう一つは「コミュニケーションの育成」ということである。英語の単語をたくさん覚えることとか、ALTの発音をリピートするとかということは否定しないが、先生と児童、児童と児童がコミュニケーションを図るという活動を取り入れることが大切である。もちろん習いたての子どもたちに「英語でコミュニケーションを取りなさい。日本語はだめよ。」などと言ってもできるわけがありません。それでも、「ここだけ今習った英語を使ってみようか。」「これだけは日本語なしでね。」とちょっと制限を加えながら、英語というものを活用していく力をつけさせることが大切だと思う。

学習指導要領にもあるように、小学校外

国語活動の指導者は原則担任であることは、言うまでもない。子どもの実態や子どもの反応が予想できる最適な指導者はやはり学級担任である。しかしながら、学級担任にお任せというのもいただけない。ある程度は学校体制の中で研修体制を整えていくことが大切だと思うし、町としても、また私を含めて、小学校英語の推進者というべき



人たちを中心とし校外研修活動にも力をいれていくことが大切だと思う。

今年一年、授業実践をしてきてみて、子どもたちにスキルが身についたと言いづらなものがあるが、子どもたちと楽しく英語を学習することができたこと、コミュニケーション活動をたくさん取り入れることができたということは、自信を持って言える。これからも、いろんな研修会に参加し、自分の引き出しを増やしていくと共に、小学校英語のあり方みたいなものを広めていきたいと思う。